

「学生による授業評価」のまとめ 2021年度第3・第4クォーター刊行にあたって

2022年6月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会
委員長 沢登文治

南山大学では、1997年度から全学で「学生による授業評価」を実施してきた。この授業評価の目的は、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育の質を向上させることにある。2017年度よりクォーター制が導入され、同時に「学生による授業評価」はウェブ入力方式へ変更するとともに設問項目の整理を行った。

2020年度および2021年度は世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、大学においても徹底した感染防止対策が導入され、授業形態もそれまでのものとは大きく変更を余儀なくされた。まず2020年初めより大学は入構禁止となり、2020年度第1クォーターの授業は、予定より遅れて4月下旬から、教員と学生の直接的対面がなく、また学生同士の接触もない形態、つまりウェブクラスとズームを用いた「オンライン授業」が、すべての科目で実施された。そして、学生による授業評価は、教員が授業体制を整えることに注力できるよう中止された。

同年度の第3・第4クォーターは、全国的な感染状況の改善が見られたため、第2クォーターのオンライン授業に加えて、通常の対面授業、対面とオンラインを併用するハイブリッド授業も行うこととなり、これらの授業形態に対応できるよう設問内容を変更して学生による授業評価を行った。

また、2020年度より授業評価を行う対象科目数を見直して、専任教員・非常勤教員にかかわらず各クォーター1教員1科目であったのを、各学期(2つのクォーター)1教員1科目に削減した。

そして、2021年度第1・第2クォーターにおいても、2020年度に引き続き、対面授業、ハイブリッド授業およびオンライン授業の3種類の形態で授業が行われた。この状況は、第3・第4クォーターにおいては、対面授業を基本形態としたために、対面授業の全体的科目数は増えたが、ハイブリッド授業を含む3種類の形態で授業が行われたことは同様であった。

以上のような、新型コロナウイルス感染症対策に関連して、多くの状況変化が日々展開する中で、2021年度第3・第4クォーターの「学生による授業評価」は予定通り実施された。

なお、評価対象科目の選出ルール等の詳細についてはウェブページ(南山大学ホーム>日本語トップ>在学生の皆様>授業改善への取組(「学生による授業評価」))に掲載されているのでご覧いただきたい。また、授業評価結果の概要についても同じウェブページで開示されている。

1 授業評価の実施方法

① 対象科目

各学期について1教員につき1科目が選択され第3・第4クォーター合わせて合計442科目が授業評価の対象となった。

② 質問項目

質問項目は以下のとおりである。設問1と2は、学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほかに、3つの自由記述の質問項目を設けており、理工学部の授業については4つの追加設問項目がある。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。

設問2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

設問3：オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。

対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか。

設問4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。

設問5：この授業の到達目標を理解することができましたか。

設問6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。

設問7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。

設問8：授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は【3 どちらとも言えない】を選択してください。

設問9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。

設問10：授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされてきましたか。

設問11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。

設問12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。

設問13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。

設問14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。回答は匿名化して処理される。学生は、教員の指示により授業時間内外に各自のスマートフォン等を使ってPORTAにログ

インして回答する。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行った。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

	第3クォーター	第4クォーター
授業評価の実施	2021年10月20日～ 2021年11月9日	2021年12月22日～ 2022年1月25日
集計作業	2021年11月10日～ 2021年11月12日	2022年1月26日～ 2022年1月28日
教員への集計結果の通知	2021年11月15日	2022年1月31日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2021年11月15日～ 2022年2月15日	2022年1月31日～ 2022年2月15日
『学生による授業評価』のまとめの発行	2022年6月	2022年6月

2 集計結果の概要

① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である(表1)。全体の数値は、第3クォーター44.50%、第4クォーター47.90%であった。前年度第3クォーター42.25%、第4クォーター41.51%と比較すると、いずれのクォーターにおいても今回は改善している。しかし、同表に示されている2019年度Q3以降における最高値は、2020年度第2クォーターの52.42%であり、それには届いていない。また、今回と前年度同期の規模別回答率を比較すると、30名以下から240名までのクラスで一貫して改善しているものの、241名以上では逆に、若干ではあるが回答率が減少していることは、注意して見ていかなければならない。

表1 回答率(2019年度第3クォーター～2021年度第4クォーター)

	2019Q3	2019Q4	2020Q2	2020Q3	2020Q4	2021Q1	2021Q2	2021Q3	2021Q4
全体	42.16%	46.23%	52.42%	42.25%	41.51%	48.05%	50.30%	44.50%	47.90%
30名以下	62.32%	65.42%	68.86%	48.77%	50.22%	62.11%	70.02%	51.66%	58.78%
31～60名	46.19%	51.36%	54.99%	39.65%	42.54%	53.04%	56.27%	46.25%	52.79%
61～120名	39.45%	45.43%	52.44%	40.29%	38.40%	42.26%	48.70%	41.78%	48.63%
121～240名	38.65%	41.80%	49.70%	41.43%	37.00%	46.30%	44.67%	42.21%	43.52%
241名以上	35.58%	34.67%	48.20%	46.64%	43.32%	45.34%	48.84%	46.39%	42.07%

② 報告書提出について

授業評価を行った後に教員より自己点検・評価報告書を提出していただいている。2021年度第1クォーターおよび第2クォーターにおいてと同様に、今回の第3クォーターおよび第4クォーターにおいても非提出者は0件であった。しかし、期限を過ぎての提出が複数件であった点については、まとめ作業への影響があるため、今後も提出期限遵守についてさらにご理解とご協力をお願いすることとしたい。

③ 評定平均値について

表2を見ると、多くの授業がオンライン授業やハイブリッド授業であったのにもかかわらず、「項目3から14の評定平均値」について第3、第4クォーターそれぞれ4.47および4.40であり、2020年度の第2、第3、第4クォーターとそれほど相違はないことが分かる。

表3は各設問項目の数値の推移を示している。オンライン授業またはハイブリッドを含む対面授業が行われた中で、設問9の学生の理解度への配慮・板書、配付資料に関する数値は、4.4以上を維持しており、コロナ前と比較すると、若干向上し、それがそのまま維持されているが、これはすべての授業担当者の様々な努力と工夫の現れであろう。

一点気になるのは、設問1「授業への興味」および設問2「授業への取り組み・自主的な学習の実行」が、Q4において若干低下している点である。今後、注意して見ていきたい。

表2 項目3から14の評定平均値(2019年度第3クォーター～2021年度第4クォーター)

年度・学期	2019Q3	2019Q4	2020Q2	2020Q3	2020Q4	2021Q1	2021Q2	2021Q3	2021Q4
全体	4.37	4.43	4.43	4.44	4.43	4.43	4.45	4.47	4.40

表3 項目ごとの評定平均値(2019年度第3クォーター～2021年度第4クォーター)

	設問項目	2019	2019	2020	2020	2020	2021	2021	2021	2021
		Q3	Q4	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
1	授業への興味	4.10	4.18	4.16	4.12	4.20	4.10	4.12	4.13	4.06
2	授業への取り組み・自主的な学習の実行	4.08	4.13	4.22	4.18	4.22	4.18	4.17	4.15	4.08
3	授業時間の厳守	4.64	4.63	4.73	4.72	4.67	4.74	4.70	4.75	4.64
4	構成や速度が適切	4.42	4.49	4.48	4.49	4.47	4.48	4.49	4.51	4.46
5	到達目標の理解	4.15	4.24	4.19	4.17	4.21	4.16	4.18	4.18	4.16
6	到達目標の達成	4.09	4.16	4.10	4.11	4.14	4.07	4.11	4.12	4.08
7	教員の姿勢	4.52	4.54	4.60	4.60	4.57	4.58	4.60	4.63	4.53
8	教員の声	4.57	4.58	4.48	4.56	4.53	4.60	4.59	4.63	4.60

9	理解度への配慮・ 板書、配付資料	4.42	4.48	4.44	4.47	4.45	4.46	4.47	4.50	4.46
10	妨げ行為への対処	4.44	4.50	4.64	4.67	4.71	4.72	4.70	4.74	4.66
11	意欲を引き出す工夫・ 自主的な学習の指導	4.25	4.33	4.28	4.32	4.30	4.26	4.31	4.35	4.25
12	質問や相談の機会	4.37	4.42	4.45	4.49	4.44	4.42	4.46	4.48	4.36
13	知識・理解の深まり	4.34	4.40	4.39	4.39	4.37	4.38	4.40	4.39	4.36
14	全体としての満足度	4.28	4.36	4.33	4.34	4.33	4.30	4.35	4.36	4.30

3 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところ、教員ごとの結果である。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。それぞれ、次の内容となっている。

- ① 科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など
- ② 2種類のレーダーチャート 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した結果である。
- ③ 「授業評価結果を踏まえた点検・評価」 各教員が今回の授業評価結果を基に、結果の自己点検評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書である。

4 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために行われている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を基礎として、自分の授業について点検・評価を行って改善策を検討する。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業の質等を向上させることにつながれば幸いである。

2021年度第3クォーターおよび第4クォーターにおいても、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本学の授業は、ハイブリッド授業を含む対面式授業とオンライン授業の形態が混在する中で実施され、その中で授業評価が実施された。対面が可能となった授業でも、オンラインで受講した学生がかなりいた模様であるが、一方で教員は対面で出席する受講生が少人数であっても面前に受講生がいる限り、対面学生とオンライン受講生の両方に目配りをしながら授業を運営した。つまり、教室ではマスク着用の上講義をし、黒板・ホワイトボードに板書をし、またオンラインの受講生にはカメラでの板書の映り具合やマイク音声の配信状況に問題がないか、さらに質問の機会がオンラインの学生にもきちんと確保できているかなど、多くの確認や調整等をしながら授業を行う工夫が引き続き必要であった。そのようにコロナ感染症が蔓延する前の授業形態と比較すると、教員が授業に必ずしも集中できない点や場面が日々数多く発生していたが、その中でも一定の評価値が得られたことは

一つの安心材料である。しかし、2022年度からほぼ全面的に以前の対面授業方式に戻ると仮定すると、来年度の各クォーターにおいて実施される授業評価アンケートの結果の推移について、これまで以上に注意を払っていくことが重要となろう。

以上